目指せ！鳥人間「飛楽技伸（ヒラギノ）クラブ」

株式会社 SCREENセミコンダクターソリューションズ
R&D戦略統轄部　情報戦略部
岩本（いわもと）　花子（はなこ）

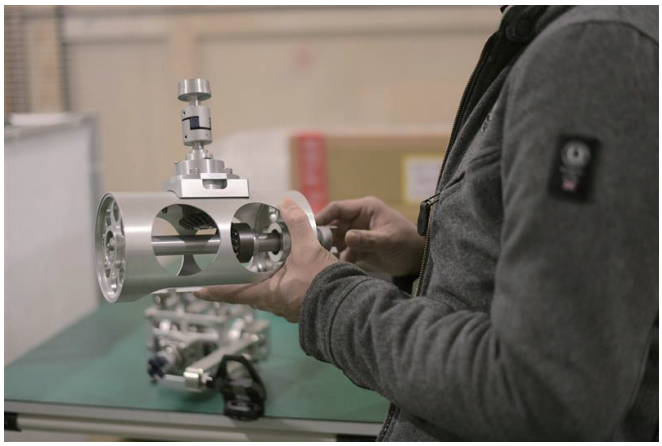
琵琶湖の夏の風物詩といえば滋賀県彦根市で開催される「鳥人間コンテスト」。当社には、鳥人間コンテストへの出場を本気で目指す会社公認の「飛楽技伸（ヒラギノ）クラブ」があります。

飛楽技伸クラブ発足のきっかけは、SEAJ の前副会長でもある、後藤（SCREEN ホールディングス　代表取締役 取締役社長）からの「グループの一体感醸成のために鳥人間コンテスト出場を目指してみては？地元彦根の地域貢献にもなるだろう」という何気ない一言でした。私は鳥人間コンテストの大ファン。「後方支援は任せろ」との後藤の言葉を信じ、社内調整や部員募集を進め、わずか3カ月でクラブを立ち上げました。それが2024年3月のことでした。

定例会の様子。勤務地が複数にまたがるため、ハイブリッドで開催

次に当クラブ名の由来を。「飛んで・楽しく・技術を・伸ばす」の頭文字を当てたのですが、ピンときた方はかなりの SCREEN 通。当社グループは半導体製造装置だけでなく「フォント」の開発なども行っています。その中で Apple 社の製品や高速道路の標識などでも採用いただいているのが「ヒラギノフォント」で、それをもじったものです。いかにも関西企業だなぁと思っていただけたでしょうか。

さて、発足当初は30名ほどでスタートしたものの、鳥人間コンテスト出場経験者はゼロ。半導体製造装置を作るのは得意でも、飛行機を作った経験はありません。そこで、ダイダロス（1980年代後半にマサチューセッツ工科大学のリンカーン研究所で開発された人力飛行機）を参考に設計するところからスタートしました。他にも、HPA（Human Powered Aircraft）交流会に参加して、出場経験のある大学や企業チームの技術者から知見を得たり、大学チームを個別に訪問して直接教えを受けたりと、さまざまな活動を行いました。素人集団のため計画通りに進むはずもなく、何度も壁にぶち当たり、トライアンドエラーを繰り返しながらも、なんとか構想設計、飛行機設計、性能評価を進めました。そして、2025年2月、「鳥人間コンテスト2025」の書類選考にぎりぎり間に合いました。活動初年度の目標はコンテストへのエントリーでしたので、ここでいったん目標達成です。とはいえ、1年目には初号機の製作という目標もあったため、製作も並行して進めていました。ただ、課外活動ということもあり、時間の確保には苦労し、思うように進まない場面も多々ありました。


設計者のロマンがつまったギアボックス（試作品）

そんなある日、「読売テレビ」から取材依頼が入りました。まさか書類選考に1年目で通るとは思っていなかったうえ、テレビ局からも「エントリーしたチームに順に取材させてもらっているんです」と言われたものの、さすがにこれは「ワンチャン」当選もあるのでは⁉ とメンバー一同ざわつきました。そうなるとのんびり初号機を作っている場合ではないぞ！と、急にあわただしくなったのは想像に難しくないかと思います。後日、正式な出場通知を受け取ったときは、嬉しさと同時に“もう後戻りはできない”という覚悟が芽

生え、みんなの気持ちのギアが一段上がりました。

左からパイロットの平田さん、部長の安本さん、副部長の梅谷さん、筆者岩本

とにかく機体製作を間に合わせるべく、みんな忙しい中、時間を調整して作業を進めていきました。平日は仕事を終えて19時頃から製作場所に集まり、目がしょぼしょぼする時間まで作業・・・。週末は朝から集まり、食事をとるのも忘れて作業することもしばしば。正直つらいことも多かったですが、徐々にできあがっていく機体にワクワクしました。

テストフライト。翼は今大会出場チームで最も長い35m

鳥人間コンテスト当日を迎えるまで、数々の試練がありました。ケタ（人力飛行機の骨となるカーボンパイプ）試験でケタが折れたことや、テストフライトで風にあおられて翼の一部が折れたことなど数えきれないほどのトラブルがありました。もちろん他チームとの実力差を目の当たりにした大会当日でもありました。それでも、発足からわずか1年半で憧れの舞台に立てたことは、私たちにとって大きな誇りです。出場チーム名は「NIJI Wings 彦根」。夢とロマンを乗せた私たちの機体は、残念ながら琵琶湖の空を大きく舞うことはできませんでしたが、挑戦と努力が認められ、「THE FRESH BIRDMAN 賞」を受賞できたことは、たいへん光栄に思っています。

いざ、琵琶湖の空へ

この活動を通じて得られたことは本当に多くあります。一番は、社内のさまざまな方々から「応援しているよ」「惜しかったね」といった温かい声をいただき、励まされたことです。メンバー同士だけでなく、当初の目的であるグループの一体感を感じることができたのは、大きな成果です。また、普段の業務ではなかなか経験できない部品設計や治具の製作、組み立て作業、失敗から学び改善するものづくり、さらには未経験の技術分野への挑戦など、貴重な体験を積むことができました。これらすべてが、私たちにとって大きな財産です。

すでに来年の挑戦に向けて動き始めています。1g でも軽い機体を、1m でも遠くに飛ぶ機体を目指し、私たちの挑戦は続きます。

みんな笑顔。来年も必ず琵琶湖に戻ってきます！

読売テレビ『鳥人間コンテスト』公式 YouTube で紹介動画公開中。ぜひご覧ください！
https://youtube.com/shorts/DUWNcSsGprQ

鳥人間コンテスト2025受賞チーム
https://www.ytv.co.jp/birdman/news/index.html